

## ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー  
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程  
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師  
加瀬 政美

### 【第20号】 小・中学校向けバージョン 読みの指導で指導者が意識すること

前号で、Lesson のまとめの段階で、「読めるようになったし、内容理解もできた。じゃ、仕上げにシャドーイング行くよ。」と実践してもついてこれられない子に絶対出会います。その場合、どのような工夫が必要かと投げ込みました。「やっぱり難しいかな？」と教師自身が悩み、これはこのクラスの実態には効果がないなと心が折れてしまう時があると思います。でも、「ちょっと待った！」そこで、「じゃやらない！」ではいつまで経っても授業改善なんてできません。

そこで、次の二つを工夫してみてください。

多くの学習者にとって、はじめてやるシャドーイングは、口がうまく回らなかったり、途中でかなり遅れをとったり、音読のときのように上手いかなと思います。負荷が高くなり過ぎないようにするためには次の一手です。

- 1 便利な練習ツール、「リテンション」をお勧めします。 retain は「～を保持する」の名詞 retention です。「保持力」「記憶力」です。ふう～、つまり「部分練習」で「記憶保持かなあ、意味的には！」と予測ができたことと思います。

やり方は簡単で、意味の「かたまり」ごとに音声を止めて、英語のリズムを完璧に真似して自分で言う作業です。

例えば、次の表現をシャドーイングして英語で表現力を身につけさせたいとします。

(中学生向け)

Thank you, Taro, for your kind introduction. Good afternoon, everyone. First of all, thank you for taking time out of your busy schedule to come to this meeting. I would also like to thank Taro and his staff for all the preparation for this event.

～

これを、

Thank you, Taro,  
/for your kind introduction.  
/Good afternoon, everyone.  
/First of all,

/thank you  
/for taking time  
/out of your busy schedule  
/to come to this meeting.  
/I would also like to thank Taro and his staff  
/for all the preparation  
/for this event.

このリテンションの作業で少し下準備をしておいてからシャドウイングに入ると、生徒にとっていい足場かけになります。自転車🚲の補助輪みたいなものです。小学校でもこれをヒントにできそうですね。スピーキングにもつながっていきます。

## 2 シャドーイングは、強弱のリズムを真似るのが、習得の早道です。

最初から強弱を意識してやらせないことがおすすめです。

[成果が上がるコツとしてその手順をまとめると]

- ①構文と意味をしっかりと理解させる、イメージさせる。 Lesson の最終段階がいい、理由は、内容が理解できていて背景知識も備わっている状態だから。
- ②リズムにフォーカスする。
- ③まず弱を基調として (ダラ〜っと)、そこに軽く拍を入れていく感じで練習すると良い。教師はその拍に手を叩くと子どももリズムをとりやすい。
- ④最終的には、音と意味の両方を味わいながら、自分が話している感覚でシャドーイングできるところまで個に応じてやり込む。  
そしてそれも宿題として、「家で10回やってこよう！」なんて具体的な数値 (回数) 添えてあげると子どもはわかりやすいです。(回数は何回でもいいんです) また、デジタル端末が持ち帰れるので計画的に行うといいです。

特に、③を意識してください。

ダラ〜っと力を抜いて、楽に！「もそもそっ！」で感じていいです。「ピリオドまで行けた？」 よし、次は、「拍」を入れるよー。「拍」はトップの子音から、「スパ〜ンッ、スパ〜ンッ」と切れ味よくね！、軽く叩くように力を一瞬入れるんだよ。やってごらん。そうそう、その軽い、一瞬の切れ味のよさを味わいながらだゾ〜。もう1回いくよ！」  
すごい👏 ネイティブみたいじゃん。いいね」 こんなイメージです。

こんなやり取りが子どもとできたら、ドンドン伸びていくと思います。子どもは先生のこと大好きになっちゃいます。わかりやすかったり、できるようにしてくれたり、そしてできるようになったら褒めてくれる先生にもっと教わりたいってどの子どもも思っています。こうなったら、つまずききかけている子どももすぐに立ち直ろうとします。その瞬間を見逃してはいけません。

さて、次号では、こんな感じで読めるようになって、シャドーイングで培った力から、スピーキング力を強化する授業の工夫を紹介します。シャドーイングだけで終わってはいけません。これはゴールではないですから。